

滋賀県の地震

令和 7 年(2025 年)5 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	6
(2)概況	-----	6

3 地震一口メモ

北但馬地震から 100 年	-----	7
---------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

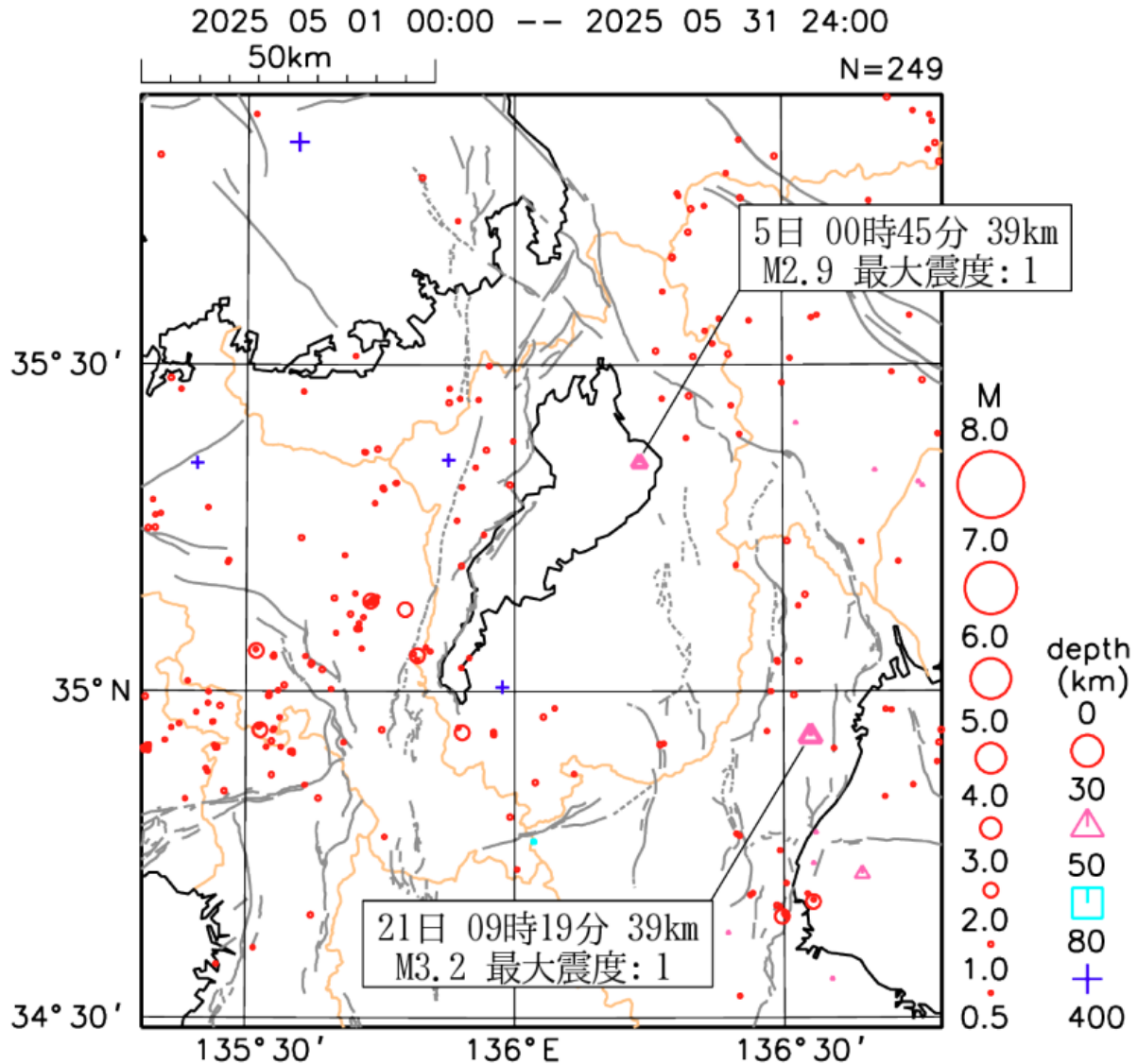
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和7年5月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度（実線部＞破線部）を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

5月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は16回（前月6回）でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は3回でした（前月1回）。

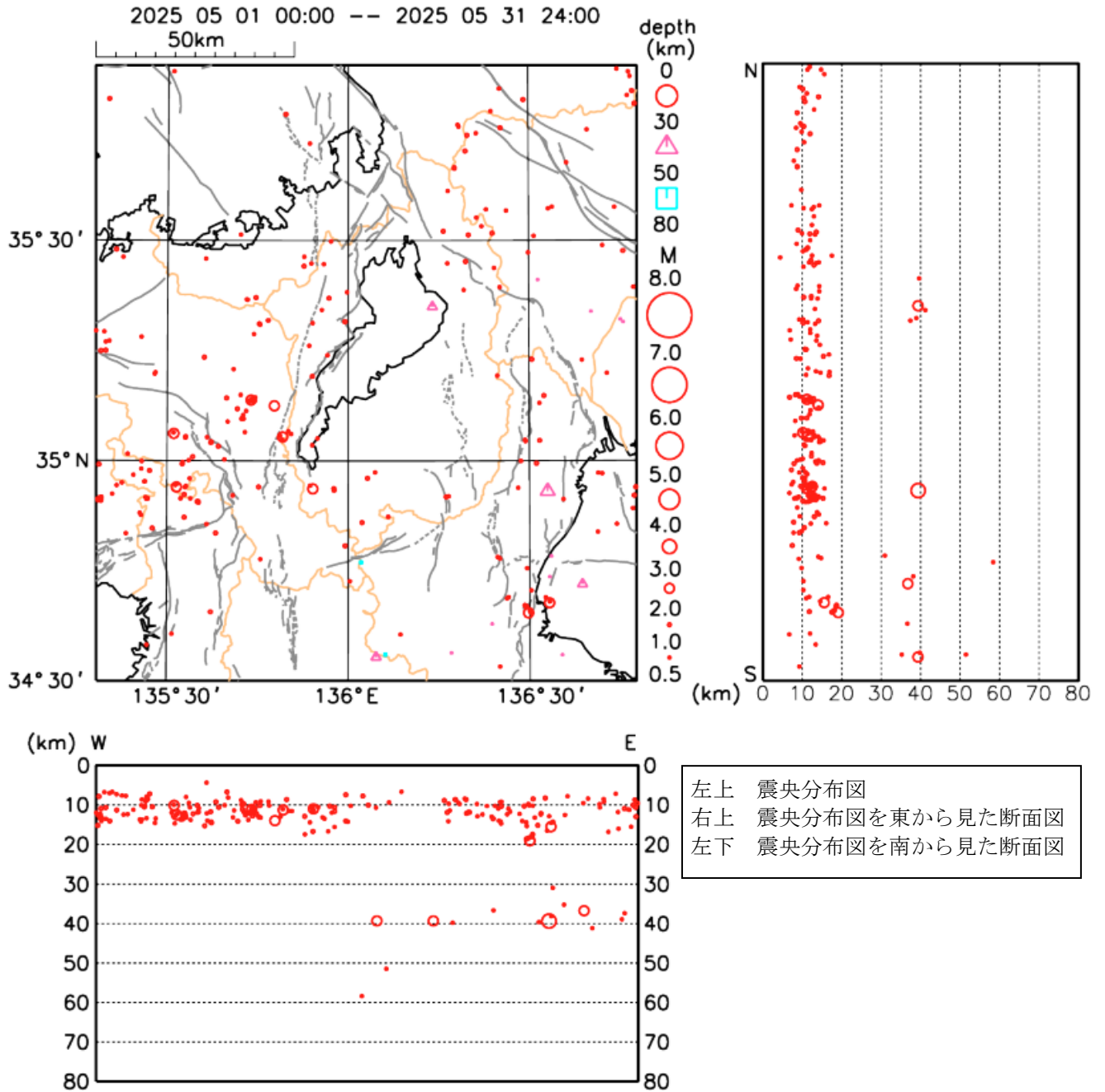
滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

5日 00時45分 滋賀県北部の地震（M2.9）：高島市で震度1

21日 09時19分 三重県北部の地震（M3.2）：東近江市で震度1

29日 15時28分 岐阜県飛騨地方（図の範囲外）の地震（M4.5）：彦根市、長浜市、高島市、近江八幡市、甲賀市、東近江市、豊郷町、日野町、竜王町で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2025年05月05日00時45分	滋賀県北部	35° 21.0' N	136° 13.9' E	39km	M2.9
----- 地点震度 -----					
滋賀県	震度 1 : 高島市勝野＊				
2025年05月21日09時19分	三重県北部	34° 55.8' N	136° 33.0' E	39km	M3.2
----- 地点震度 -----					
滋賀県	震度 1 : 東近江市市子川原町＊				
2025年05月29日15時28分	岐阜県飛騨地方	36° 03.8' N	137° 17.0' E	12km	M4.5
2025年05月29日15時29分	岐阜県飛騨地方	36° 03.6' N	137° 17.1' E	13km	M4.5
----- 地点震度 -----					
滋賀県	震度 1 : 彦根市城町 , 長浜市湖北町速水＊, 長浜市余呉町中之郷＊, 豊郷町石畑＊ 高島市朽木市場＊, 高島市勝野＊, 近江八幡市桜宮町 , 近江八幡市出町＊ 滋賀日野町河原＊, 竜王町小口＊, 甲賀市信楽町＊, 東近江市市子川原町＊				

※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

注) 5月29日の地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないので、震源を複数記載。

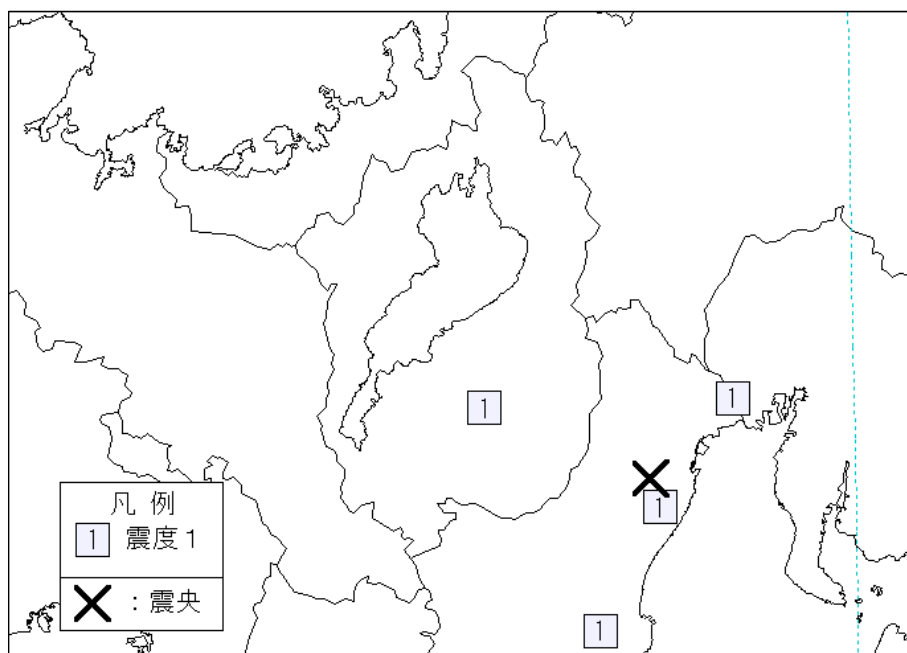
(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

2025年5月5日00時45分 滋賀県北部 (M2.9)



各観測点の震度

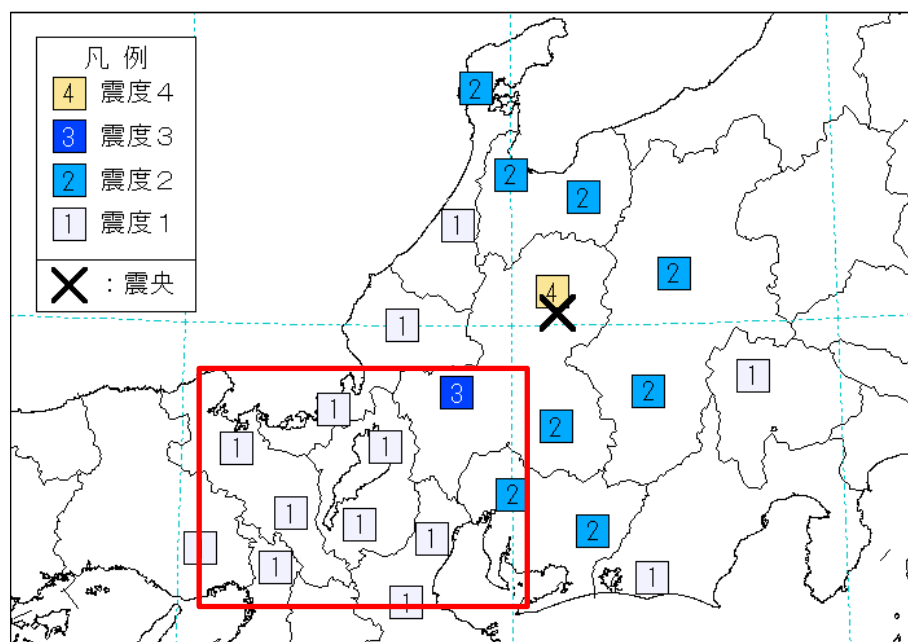
2025年5月21日09時19分 三重県北部 (M3.2)



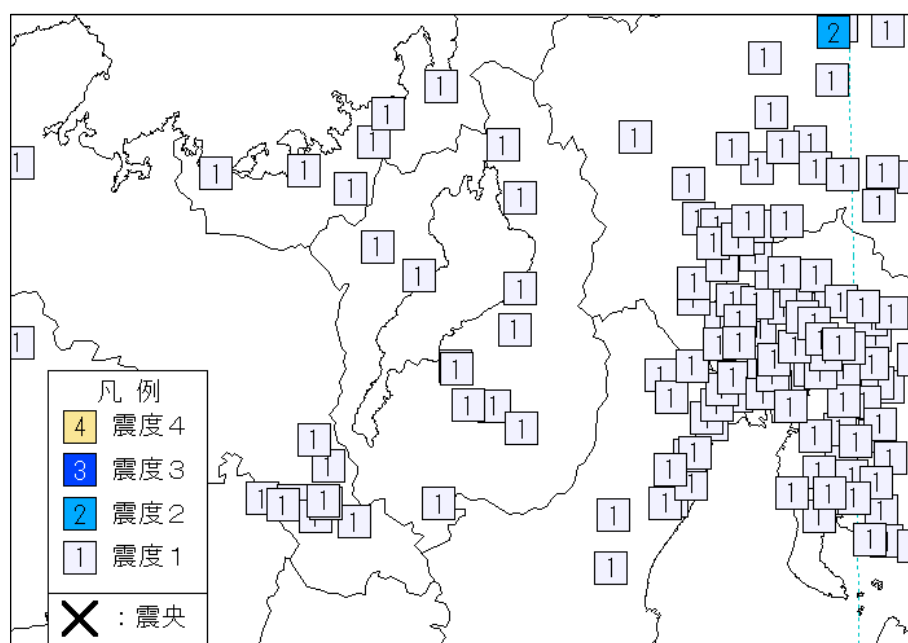
各観測点の震度

2025年5月29日15時28分 岐阜県飛騨地方 (M4.5)

2025年5月29日15時29分 岐阜県飛騨地方 (M4.5)



各地域の震度

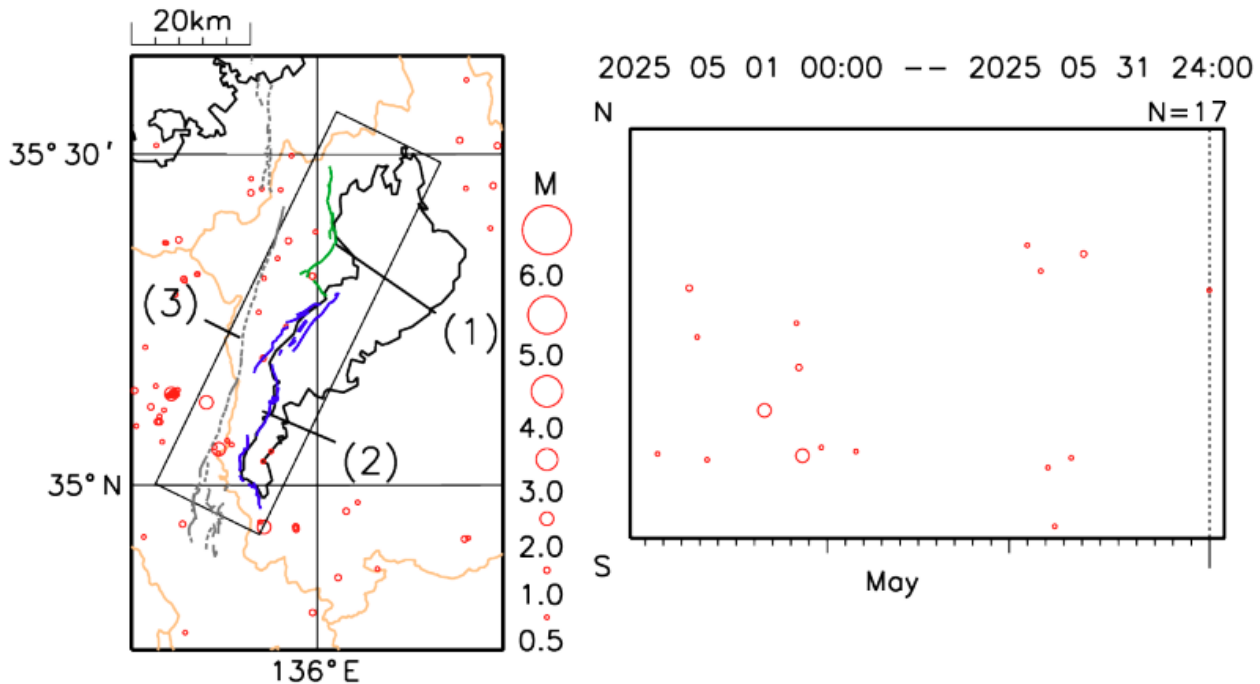


各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

注）ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないので、震源を複数記載。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 7 年 5 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

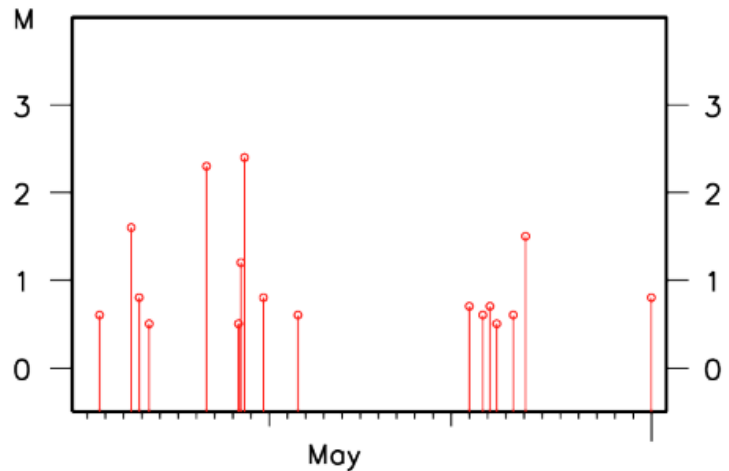
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2025 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

4 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 2 回(前月 1 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

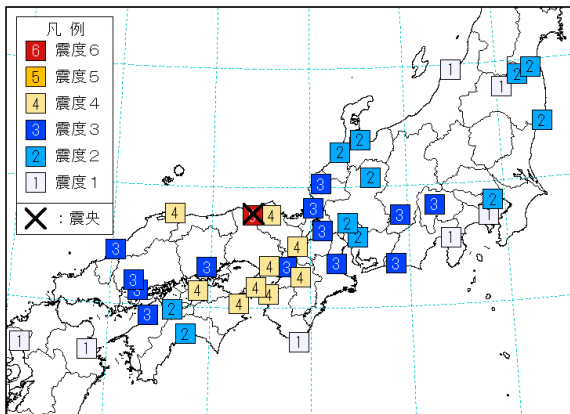
北但馬地震から 100 年

今年は1925年5月23日に発生した北但馬地震から100年の節目にあたります。北但馬地震は兵庫県北部を震源とするM6.8の地震で、豊岡で震度6*を観測したほか、彦根でも震度3を観測しました。この地震では震央付近の円山川流域の河口から豊岡にかけての狭い領域で建物倒壊や火災による被害が特に大きく、兵庫県・京都府で死者428人、負傷者834人、家屋全壊1,295棟などの被害（日本被害地震総覧による）となったほか、液状化によると思われる地盤沈下も発生しました。

また、この2年後には京都府北部を震源とするM7.3の北丹後地震が発生するなど近畿地方北部で大きな地震が続けて発生しました。

北但馬地震について、神戸地方気象台では特集ページを開設して当時の記録などを公開しています。この機会に日頃からの備えについて確認してはいかがでしょうか。

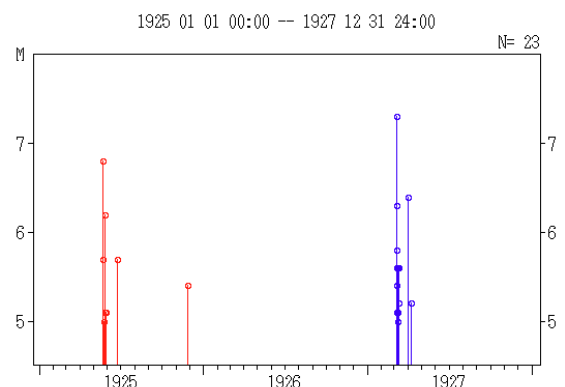
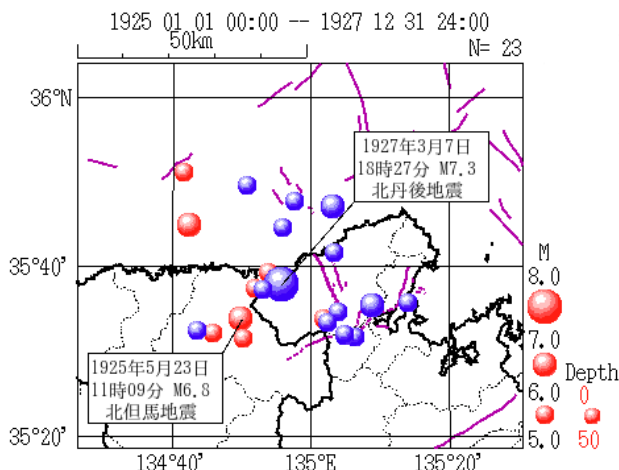
- * 当時の震度階級は震度6までで、震度7が導入されたのは1949年からです。
また、震度5と震度6がそれぞれ「強」・「弱」に細分化されたのは1996年です。



北但馬地震における震度分布図



城崎町（現 豊岡市）の焼け跡（気象台職員撮影）
（神戸地方気象台 北但馬地震特集ページより）



北但馬地震と北丹後地震の震央分布図（1925年～1927年、M≥5.0、深さ0～50km）と地震活動経過図（規模別）
北丹後地震以降の地震は青色で区別、紫線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層

神戸地方気象台HP 北但馬地震(1925年)特集ページ

<https://www.data.jma.go.jp/kobe-c/bousai/higaijishin/kitatajima-jishin/index.html>

気象庁HP 地震から身を守るために

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/jishin_bosai/index.html